



ABAニュース

第3号

Association of Biodegradable-Plastics for Agriculture NEWS

農業用生分解性資材研究会 機関紙（年2回発行）

編集・発行：農業用生分解性資材研究会（略称 ABA）

事務局：〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル

社団法人 日本施設園芸協会内

TEL. 03-3667-1631 / FAX. 03-3667-1632

 HP <http://www.jgha.com/conference/aba/ABA.htm>

今号の内容

農業用生分解性資材 露地野菜農家アンケート

最近の農業用生分解性資材研究会の活動

平成20年5月12日、通常総会を開催し、昨年に引き続き生分解性資材の普及活動、ABAニュース発行や研修会・セミナー等、更に普及が前進する方針を採択しました。

5月28日には、JA全農の営農・技術センター（神奈川県平塚市）で、研修会を実施しました。加工野菜の現状や動向について農林水産省生産局園芸課流通加工対策室生産専門官の伊藤祐一氏より、また落花生における生分解性マルチの導入事例について神奈川県農業技術センター主任研究員の久保深雪氏に講演いただきました（写真左）。

講演前に同センター内の試験圃場などを見学し、最新の野菜品種や技術について多くの知見を得ることができました。（同右）

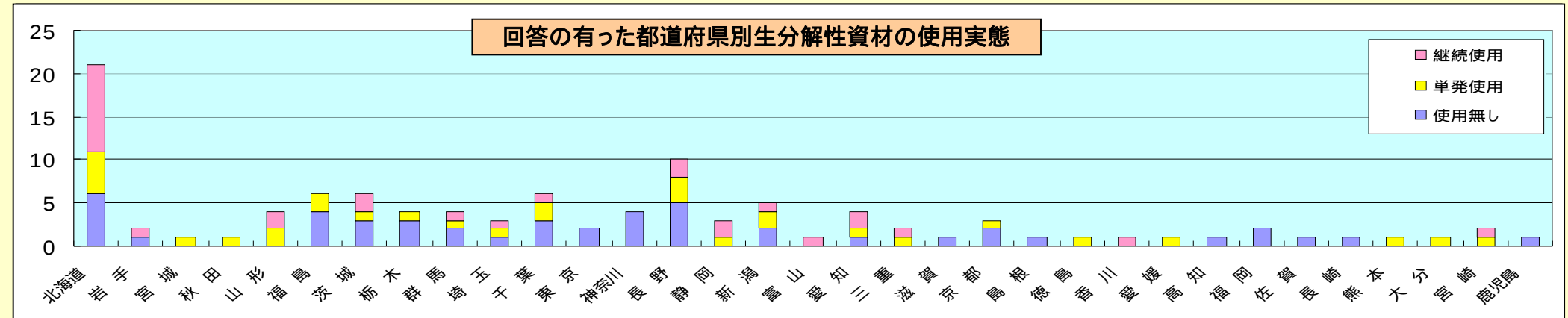
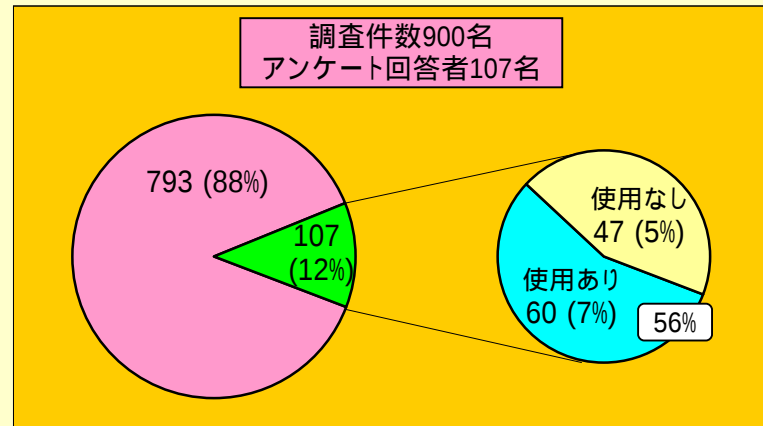


普及活動では、本年度より全国農業資材商業会（全農商）を賛助会員に迎え入れ、全農商の本部、東京支部及び各県支部（千葉・埼玉・山梨・長野）において生分解性資材の講演会を企画していただき、普及に向けての活動を実施しました。今後も引き続き他県にも普及活動を拡大することで共同歩調をとることになりました。

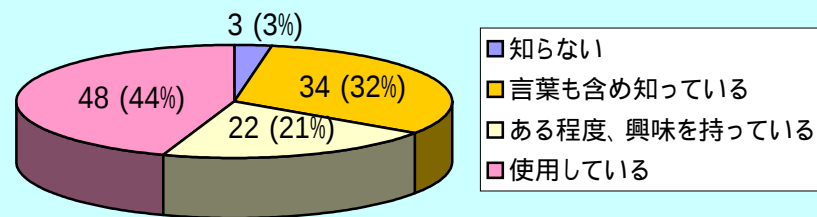
また、不特定の露地野菜農家に対してアンケート調査を実施し、農業用生分解性資材の認知度を調査しました。その調査結果を次頁に掲載しています。同時に生分解性樹脂について量及び普及度についても調査を開始しました。これらの調査結果は11月6日に東京で開催する「農業用生分解性資材普及セミナー」で発表します。

露地野菜農家へのアンケートによる農業用生分解性資材の認知度調査結果

不特定の露地野菜農家、全国900名へアンケート実施の結果、107名よりアンケート回答が得られました。農業用生分解性資材研究会としましては、この107名様より得られました貴重なデータを基に、農業用生分解性資材の現在の認知度として捉え、今後の研究会のセミナー活動や、商品開発に対する貴重な判断とさせていただきます。下記のアンケート集計結果が物語るように、露地野菜農家の皆様へ着実に浸透しているのも事実ですが、まだ現時点では、一般マルチと比した価格差の問題や分解時期がわかりにくい、強度的な面などの理由で買い控えられているのも事実のようです。ただし、作物によっては、カボチャ、トウモロコシ、レタスなど特に大規模栽培されている農家様には、省力、環境に優しい等の理由で継続的な使用をされている実体も浮き彫りになっています。

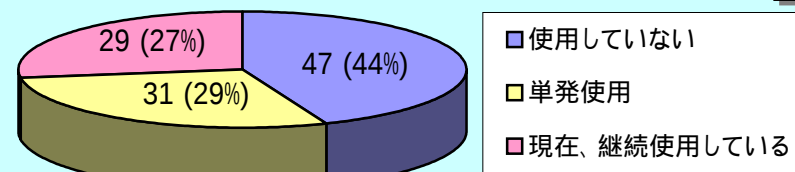


・農業用生分解性マルチフィルムをご存じですか。

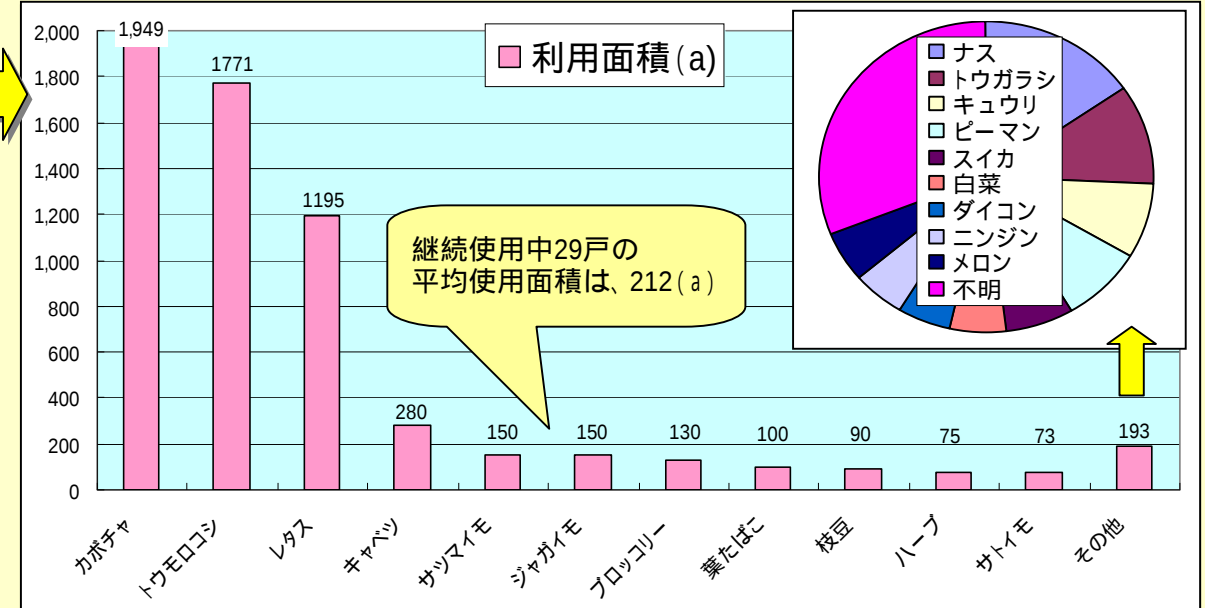


回答者の44%が使用しているとの高い数字がでていますが、露地野菜農家へのアンケート配布数は900のため、48/900 (5.3%)と捉えた方が実体の数字と思われます。
なお、3%が知らないと有りますが、回答のなかった人を入れと認知度アップが急務ですね。

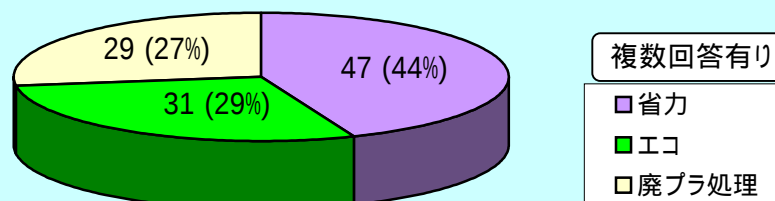
・農業用生分解性マルチフィルムをお使いですか。
どのような作物に、どの程度お使いでしょうか。



回答者の27%が継続使用中、1回以上単発使用したことがある人は、29%、結果56%の方が使用実績有りとの高い数字がでています。特に問題点として捉えなければいけないのは、単発使用の方の貴重な意見が普及のヒントになりそうですね。

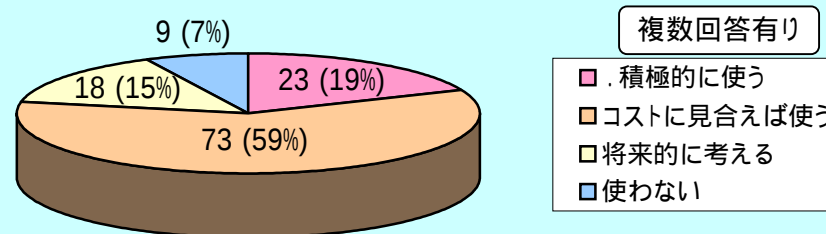


・上記 . の質問で と を選んだ方にお聞きします。
農業用生分解性マルチフィルムを最初どのような
きっかけで使われましたか。



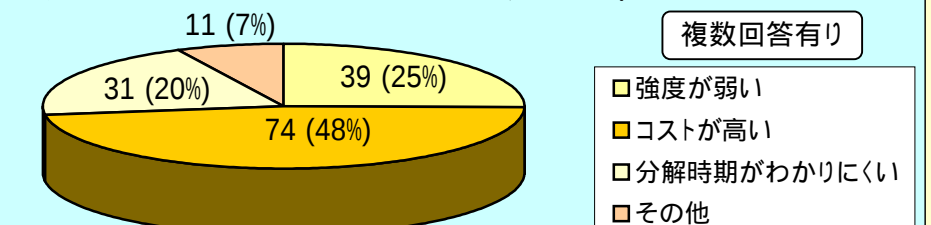
最初の使用きっかけは、省力 (剥がす手間が省ける) が44%、エコ (環境に優しい) が29%、廃プラ処理 (ゴミが出ない) が27%と有るように、この3つの理由が重なって使われるケースが多いと思われますが、特に省力が一番手の理由なのは納得できる気がしますね。

・今後、農業用生分解性マルチフィルムを使う予定は
ありますか。



回答者の19%が積極的に使うとの回答、これは継続使用中の大半を占め、なお、コストが見合えば使うとの意見が59%を占めます。コストと言っても作業手間を加味したトータル的な費用対効果を明確に打ち出せば、積極的に使って頂くチャンスがあるようですね。
なお、使わない理由としては、有機認証資材でない為が大半でした。

・上記 . の質問で を選んだ方にお聞きします。
農業用生分解性マルチフィルムの改良について以下の
該当するものに○印を付けてください。



回答者の48%がコストが高い、他に、強度が弱い25%、分解時期がわかりにくい20%等の回答を得ました。普及する為のネックは一番にコストが挙げられ、益々、資材単体だけでなくトータル的なコストパフォーマンスが必要ですね。ただし、資材単体コスト引き下げも今後の重要な課題ですね。

セミナー開催のお知らせ

農業用生分解性資材 普及セミナー2008

- 日 時：平成20年11月6日（木）10:00～15:40
- 会 場：タワーホール船堀（東京都江戸川区、都営新宿線・船堀駅下車1分）
- 参加費：1,000円（資料代として）

セミナー日程

< 第1部 「バイオマス・ニッポン」総合戦略と生分解性樹脂の国内外の状況 >

- | | | |
|-------------|---|----------------------|
| 10:15～11:00 | 「バイオマス・ニッポン」総合戦略の概要 | 農林水産省環境バイオマス政策課 松尾佳典 |
| 11:00～11:15 | 植物由来の生分解性樹脂“マタービー” | ケミテック(株) 星野 修 |
| 11:15～11:30 | マルチフィルムに最適な生分解性プラスチック“エコフレックス”とそのバイオマス化 | BASFジャパン(株) 前田昌宏 |
| 11:30～11:45 | GS-Pla® 事業の方針について | 三菱化学(株) 塚原 徹 |
| 11:45～12:00 | 汎用性の高いバイオマス素材“ポリ乳酸” | ユニチカ(株) 鈴木克昇 |

< 第2部 農業用生分解性資材の普及に向けたメーカー各社の取組状況 >

- | | | |
|-------------|--------------------------------|--|
| 12:50～13:20 | 生分解性資材によるネット・不織布の実用性 | ユニチカ(株) 馬場琢磨 |
| 13:20～14:05 | 農業用生分解性マルチの実用性と普及状況 | アキレス(株) 服部英昭
太洋興業(株) 礪部俊一
(株)ユニック 小菅宏嗣 |
| 14:05～14:20 | 農業用生分解性資材への取組状況 | J A全農 広本直樹 |
| 14:20～14:35 | ユーザー意識調査結果及び生分解性マルチ普及率推移動向について | 当研究会事務局幹事 (社)日本施設園芸協会 細谷 隆 |

< 第3部 来場者と講演者による総合討論 >

- | | | |
|-------------|--|-----------|
| 14:50～15:40 | テーマ：農業用生分解性資材は、どうすれば、もっともっと普及・販売できるのか？ | 来場者と講演者一同 |
|-------------|--|-----------|

参加申し込みお問い合わせ先

社団法人 日本施設園芸協会 T E L : 03-3667-1631
Eメール : hirashima@jgha.com
U R L : <http://www.jgha.com>

ABAの会員各社

アキレス(株)・岩谷マテリアル(株)・MKVプラテック(株)・ケミテック(株)・(株)今野・サンテーラ(株)・
サンブラック工業(株)・シーアイ化成(株)・太洋興業(株)・辻野プラスチック工業(株)・東海物産(株)・
日本合成化学工業(株)・BASFジャパン(株)・三菱化学(株)・三菱商事(株)・ユニチカ(株)・(株)ユニック
【賛助員】全国農業協同組合連合会（生産資材部）・日本バイオプラスチック協会・全国農業資材商業会